

平和への誓い

今日、広島は、20世紀最後の平和記念日を迎え^{むか}ました。

この100年の間、私たちの生活は大きく変わり、今ではとても便利で豊かになりました。でも、本当に幸せで平和な世界がつくられてきたと言えるのでしょうか。

55年前の夏、ここ広島は、突然^{とつぜん}の閃光^{せんこう}とともに、高熱と爆風の渦^{うず}に襲^{おそ}われ、家族や友人との語らい、小鳥たちのさえずり、緑あふれる草木など、すべてが炎^{たつまき}の竜巻の中に永久に閉じ込められました。そして、ふるさは焼き尽くされ、見渡す限りの焦土と化したのです。

残された人々は、その苦しみや悲しみを乗り越^こえ、生きる意思と希望を支えに、瓦礫^{がれき}の中から、「過ちは繰返^{くり}しませぬから」との固い誓いのもと、復興への努力を積み重ねました。そして、今、私たちは、水と緑あふれる美しい広島^{しやうど}の街に暮らすことができるようになりました。

こうした平和への強い願^{がく}いがありながら、地球上には、今もなお、戦争、飢餓^{きが}、貧困、そして核兵器^{かく}が存在します。新たな世紀を本当に平和な世界にするためには、人間がつくりだしたこの核兵器を、私たち人間の手で地球上から無くしていかなければなりません。そのためには、まず、私たちの身近にあるいじめや暴力などの問題から、私たち自身で解決していくことが大切だと思います。きっと、私たちの力で、幸せで平和な世界をつくることができるということを、広島をよみがえらせたおじいさんやおばあさんたちの姿から学びました。

私たちは、被爆^{ひばく}した人々の平和への熱い思いを胸に刻み、新しい時代に生きる広島の子どもとして、世界の人々と手と手を取り合い、伝え合い、21世紀に向け、平和の架け橋^かとなるよう努力することを誓います。

世界みなさん、平和を築くため、できることから始めましょう。

We all long for world peace.

We hope we can work towards it together.

平成12年（2000年）8月6日

子ども代表 広島市立上温品小学校6年

広島市立長束小学校6年

おかだ
よこた
横田

か な こ
佳那子
翔